

4. 京都市左京区北部山間地の 集落維持と文化財

京都府立大学文学部地理学研究室

京都市山間地域の課題に応じた 2019 年度京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）「地域文化財を活用した山間地区コミュニティの維持方策の研究」（研究代表：上杉和央）の一環で、左京区北部山間地域の四つの集落に左京区役所職員と一緒に聞き取りに赴き、それぞれ特徴ある祭礼の保存や維持をめぐる課題や地域存続との関係性についてヒアリングをおこなった。

調査者 上杉和央（教員）、篠原光（3 回生）、京都市左京区役所職員

調査日・調査地

2019 年 6 月 17 日 久多（花笠踊り）

2019 年 7 月 10 日 花脊（松上げ）

2019 年 7 月 17 日 広河原（松上げ）

2019 年 7 月 24 日 鞍馬（火祭り）

調査により、祭礼に不可欠な材料の調達が困難となっている現状や、日常的に山仕事をおこなう者が減少したことによる技術の途絶危機、そして過疎化・高齢化に伴う人材不足といった課題が浮かび上がってきた。

一方で、伝承されてきた祭礼は、各地区ともに地区コミュニティ存続の核となるものであり、祭礼の維持方策を検討することとコミュニティ維持を検討することは表裏一体のものであることが確認できた。

なお、8 月 24 日は久多の花笠踊（参加者：上杉和央、小泉朋大、佐野将大、篠原光、鈴木更紗）（写真 1）、10 月 22 日は鞍馬の火祭（参加者：上杉和央）の様子をそれぞれ見学し、実際にコミュニティ維持の紐帯となっていることを実感することができた。（上杉和央）



写真 1 久多の花笠